

冷房育苗によるパンジーの安定生産技術

〔研究のねらい〕

秋出しのパンジーの育苗は7～8月を中心とした真夏に行われますが、高温による生育不良が起こりやすく、大きな問題となっています。そこで、クーラーを用いて育苗施設内を涼温に保つ冷房育苗を導入し、安定生産を図ります。

〔研究の成果〕

- ①冷房育苗によりパンジーの生育は良好となり、慣行育苗において55%程度とされる成苗率（播種数のうち、正常に生育して鉢上げに至る苗の割合）が85%程度に向上します（写真1、写真2）。
- ②冷房育苗時には、昼間28℃、夜間23℃とすることで十分な冷房効果が得られます（図1）。
- ③冷房の効果は、播種してから本葉が見えるまでの約3週間冷房することで安定します。
- ④冷房育苗時には、育苗施設全体を遮光率65%程度に遮光し、電気代の節約を図ります。
- ⑤冷房育苗を行った苗の鉢上げ後の生育も良好です。

〔成果の活用面・留意点〕

- ①気象条件に左右されない安定した育苗が可能となり、計画的な苗生産が行えます。
- ②成苗率の向上により種苗費が削減し、冷房に必要な経費を差し引いても収益増加が見込まれます。



写真1 冷房育苗の様子

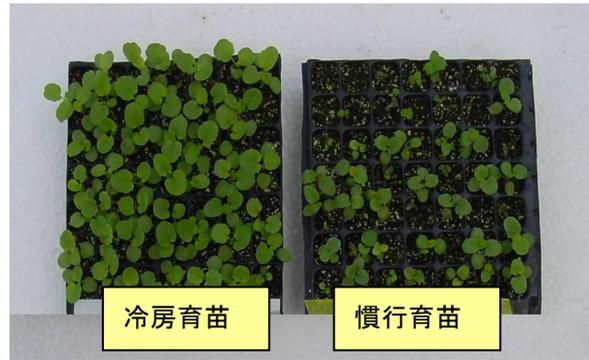


写真2 冷房育苗の効果

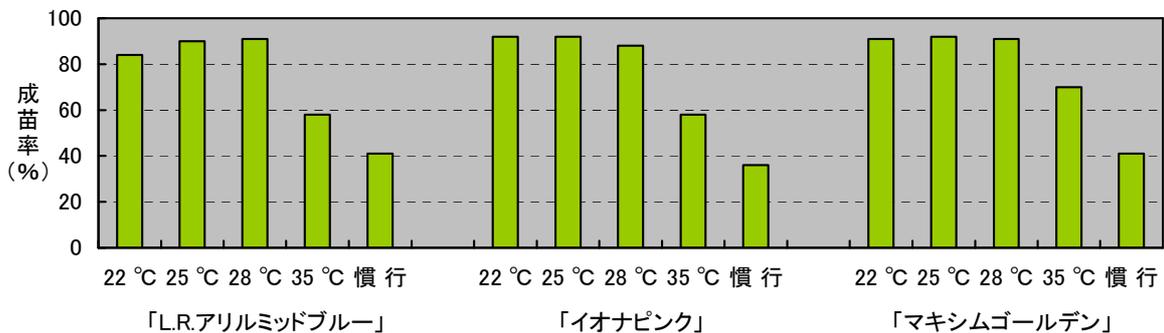


図1 冷房育苗時の昼間温度とパンジーの生育

実施年度：平成13～15年度
 担当者：島 浩二・妹尾明枝